

# ビーリア(ボノボ)保護支援会ニュースレター

2005年10月

## ビーリア(ボノボ)保護支援会の法人登録のごあいさつ

内戦の続くコンゴ民主共和国で、保護されたボノボの孤児を救おうと活動をはじめたビーリア(ボノボ)保護支援会は、皆さまのご支援で5年目を迎えることができました。

2002年にはコンゴの内戦がほぼ終結しましたが、住民の生活の惨状はかわらず、わずかな現金収入を求めて奥地から首都キンシャサに売られてくるボノボの孤児は跡をたちません。また、私たちが1973年以来30年間にわたって研究と保護の活動を続けてきましたワンバ地区でもようやく野生のボノボの保護活動を再開しましたが、ボノボの保護区であるはずのワンバ地区周辺でもその数は4分の1程度にまで減っており、ボノボはまさに危機に瀕していると言えます。

このように、戦争が終わった今も、私たち保護支援会の活動の必要性は変わっていません。そこで、今後とも長く活動をしていくために、昨年11月、私たちの拠点がある愛知県に特定非営利活動法人(NPO)として登録いたしました。今後は、クローディンさんの運営する孤児施設ボノボの楽園の支援を続けると共に、野生ボノボの生息地における密猟の監視や教育・医療面での住民の生活支援など、ボノボの孤児を生み出さないための活動にも力を入れていきたいと考えています。

組織の形態は変わりましたが、ボノボの保護に対する支援をくださる方には、これまでどおりのご支援をお願いしたいと思っています。ご寄付いただいた方には、年1回会計報告とニュースレターをお送りします。今後、ご寄付いただいたお金は、ボノボ孤児施設および野生ボノボ保護の両方に使って行く予定ですが、用途を指定したい方は孤児施設の支援か野生のボノボの保護かの使い道を指定していただければ、その目的に沿っていただいたお金を活用していきたいと思っています。

法人となっても、これまで長年にわたって保護支援会を支えてくださった皆さまのご支援がなければ何もできません。今後とも、ぜひともよろしくお願い致します。



ワンバの第一位雄・タワシ

特定非営利法人ビーリア(ボノボ)保護支援会代表 古市 剛史



Lola ya bonoboの  
子どもビーリヤ

## ボノボの楽園の現状

五百部 裕

昨年8月に首都キンシャサの近郊にあるLola ya bonobo(ボノボの楽園)を訪れ、近況をうかがってきました。第4回のご報告にも記したように、皆さまからいただいた募金に加え、代表者であるクローディンさん自身の積極的な活動により、多くの資金が集まり、立派な施設が建設されました。現在ではこうした施設を使って、地元の子どもたちを対象にした環境教育活動が盛んに行われています。またキンシャサ在住の外国人も頻繁に見学を訪れ、少しずつではありますが募金もしてくれるそうです。

訪れた時点では、37頭のビーリヤ(=ボノボの現地名、雌17頭、雄20頭)が年齢ごとの四つのグループに分かれ、この施設で生活していました。このうち比較的年齢の高い、だいたい5~10歳程度の個体は、三つのグループに分かれ、6~15haの広さの三つの野外放飼場で生活していました。それぞれの放飼場には隣接して建物が作られ、ビーリヤたちは昼間は屋外で、そして夜はこの建物の中でハンモックのベッドで寝るという生活を送っていました。毎日の食料は人間が与えています。少しずつ放飼場の中の野生の植物も食べはじめていたとのことでした。また、本来であれば母親の世話が必要な、比較的年齢の低い1~4歳の子どもたち8頭は、昼間は母親代わりの女性職員の世話を受けながら野外で活動し、夜はまとめて室内で寝るという生活を送っていました。いずれのグループも広い空間の中でのびのび生活しており、少しずつ本来の野生の生活を取り戻しているようでした。



夜寝るためのハンモック

一方で、この施設に運ばれてくるビーリヤが増加しており、個体数の増加によって好適な飼育環境が脅かされるという問題

が生じつつあるということでした。またとくに幼い子どもの場合、感染症にかかることは致命的です。そうした中で、ボノボの楽園に運び込まれてくる子どもたちの健康状態が悪く、また人間との接触の機会が増えたことによって、若いピーリヤが感染症にかかる可能性も増えつつあります。今後はこうした問題の解決に向けた努力が必要であるとのことでした。さらに、ピーリヤの数が増え続ける中で、多くのピーリヤをいつまでもこの施設で飼い続けることが難しくなっています。将来的には、もっと広い場所を用意するか、野生状態に戻すことが必要になってくるだろうということでした。

こうした問題を抱えつつも、クローディンさんをはじめとするスタッフの皆さんは、懸命にがんばっておられました。そうした中、まだ最初の苦しい状況のときから助けていただいていた日本の方々にはたいへん感謝していますとクローディンさんはおっしゃっていました。

## 野生ボノボの生息地を訪問

田代 靖子

2005年1月から2月にかけて、コンゴ民主共和国赤道州のワンバ村を訪問しました。1996年から長く続いた内戦のあと、ワンバ村での野生ボノボの研究が再開されていますが、村周辺のボノボの生息状況は、まだよくわかっていません。

ワンバ村では、コンゴ人研究者が長期にわたって野生のボノボを観察しています。そのためもあってか、昨年度ご報告したように、ワンバ村のボノボたちは研究者をさほど恐れることもなく、森の中でリラックスした姿を見せてくれました。E1という集団は子どもも含めて22頭になっていて、その中の2頭は妊娠して大きなお腹を抱えています。もうすぐ出産するのではないかと期待して観察していましたが、滞在中には出産を確認できませんでした。今ごろ、小さな赤ん坊が2頭、群れのメンバーに加わっているはずです。

1月から2月は乾季にあたり、森の中の果実がとても少ない時期でした。ボノボたちは数少ない実のなる木を探して歩いたり、湿地帯に入って植物の髄を食べたりしていました。

一方、内戦前にワンバ村にすんでいた集団のうち2集団は、ワンバ村から遠く離れた森に移動してしまったようでした。E2という集団が今でもいることは確認できましたが、昔から研究者の存在に慣れていて一部の個体を除いて、人を恐れているようでした。また、他の3集団は痕跡すら見つけることができませんでした。戦争前に比べると、ワンバ村でも野生ボノボに会うのは難しくなっています。

ワンバ村ではボノボを食べる習慣がないのですが、戦争中には他の地域から多くの人々がワンバ村周辺に来ていたため、多くのボノボが密猟の被害にあってしまったのではないかと考えられます。野生ボノボの生息状況は、かなり厳しい状態にあると考えざるを得ません。

ワンバ村の人たちは、私たちの訪問と調査の再開を歓迎してくれています。しかし、依然として彼らの経済状況は好転しておらず、私たちの活動への期待はますます大きくなっています。彼らが強く望んでいるのは、子どもたちが小学校教育を受けることと、村の医療サービスの充実です。また、現金収入の手段がない彼らは、研究活動と関係する雇用にも大きな期待を寄せています。

小学校や医療サービスへの援助を継続しておこない、野生ボノボがいる森がどれほど素晴らしいものかを村人たちに訴えていく必要があります。ボノボを守ることが村人の利益にもなると伝えることが、ボノボと人が共存する森を存続させることになるのです。私たちが目に見える援助をしていくことが重要であると考えています。



ワンバの野生ボノボの母子  
(去年の報告書と同じ母子です。赤ちゃんは1歳になりました。)



リラックスして毛づくろいするオトナの雌たち



ワンバの子どもたち

## ビーリヤの広域調査

五百部 裕

昨年8月に、戦後始めて野生ビーリヤ(ボノボの現地名)の広域調査をコンゴ民主共和国内において行いました。第4回のご報告でも記したように、野生ビーリヤが比較的良好に保護されているワンバ村周辺でさえ、1996~2002年の戦争中にビーリヤの個体数が激減したと推測されています。そこでワンバ村周辺だけでなく、より広い地域の野生ビーリヤやその生息環境の現状を把握するために、この調査が行われることになりました。

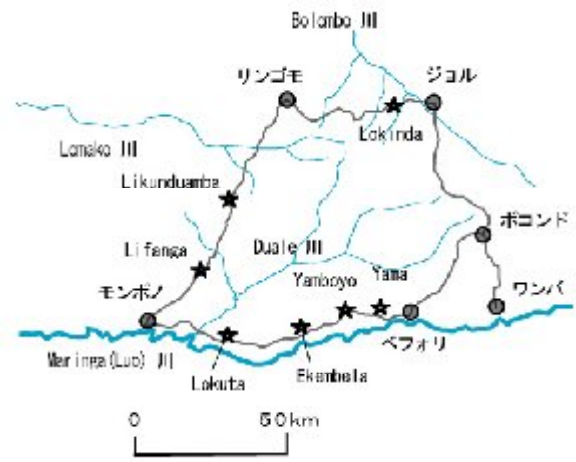
またこの調査は、CBFP(Congo Basin Forest Partnership: コンゴ盆地森林協力)の活動の一環として行われたものです。CBFPとは、2002年に南アフリカのヨハネスブルグで開催された環境サミットを契機に設けられ、日本やアメリカをはじめとする先進諸国やコンゴ盆地の周辺国、さらにはこの地域で活動する環境保護に関わる国際的なNGO/NPOなどが参加している組織です。CBFPは、コンゴ盆地の生態系保護を目的とし、11のLandscape(重点的に生態系の保護活動を実施する地域)を設けています。そしてワンバ村周辺と今回広域調査を行った地域は、このうちの一つであるMaringa/Lomako-Wamba Landscapeに含まれています。またこのLandscape内におけるCBFPの活動の責任者は、ナイロビに本部があるAWF(African Wildlife Foundation)です。こうした経緯から今回の調査はこれらの組織と協力しながら行いました。

今回の調査では、ワンバ村を基点に、ジョル、リンゴモ、モンボノ、ベフォリといった町を周回し、その間に点在する村々で聞き込みを行うという形で実施しました。戦争の影響によって自動車道路の整備が行われておらず、またそもそも調査に使えるような自動車がこの地域にはなかったため、AWFがボートで運んできたバイクを使って調査を行いました。しかし橋や道の手入れがほとんど行われていないため、人手を借りながらバイクを押して橋を渡ったり、倒木を切り倒して進んだりといった調査になりました。

聞き込みの結果、いずれの村でも「ビーリヤはいる」という答えが得られました。また戦争前に比べビーリヤをはじめとする野生動物の数が減ったという回答はほとんどありませんでした。その一方で、ワンバを除くすべての村で、ビーリヤを食べる習慣があるということも明らかになりました。ただ本当にビーリヤの数が減っていないのか? この問題は実際に森に入って調査しなければ明らかにすることはできません。しかし残念ながら今回はその時間がなく、この点をきちんと確認することはできませんでした。この調査のあと、コンゴの共同研究者が調査を継続しており、近いうちにもっとはっきりとしたビーリヤの状況がわかると期待されています。



ほとんど森に返ってしまっている国道



途中の丸太橋  
(とてもバイクに乗ったままでは渡れない)

今回訪れた地域では、直接的な戦争の被害を被った町や村はありませんでした。しかし戦争時の混乱によって現地の人たちの暮らしは大きな影響を受けたようです。とくにビーリヤをはじめとする野生動物の保護にとって大きな問題になりそうなのが、ブッシュミートと焼畑です。ブッシュミートとは直訳すれば野生の肉ということです。もともとこの地域に暮らす人たちは、ビーリヤをはじめとした野生の肉を食べるという習慣を持っていました。そうした中、戦争中に容易に武器が手に入るようになったことや駐留していた兵士に食料を提供する必要性から、森の動物の狩猟が増加したようです。また今回広域調査を行ってみて、村の周囲の焼畑が戦争前に比べ増加しているという印象を受けました。今後はこうした点についても調査を行う必要があると痛感しました。

いずれにせよ、長期にわたる政治的混乱で多くを失ってしまったこの地域の人たちは、私たちをはじめとする保護関係者に、社会資本の整備など保護活動に直接関わりのないことも含め、さまざまな期待を寄せています。ビーリヤをはじめとする生態系の保護のためには、こうした期待に応えていくことが遠回りのようであっても結果的には近道なのではないか。これが、今回いろいろな村を回った中で感じた一番の思いです。



## 寄付のお願い

ボノボの保護にご協力いただける方に寄付をお願いします。寄付金は、ボノボ孤児施設の支援および野生のボノボの保護に使われます。ただし、使い道のご希望があれば、孤児施設の支援、野生ボノボの保護などと通信欄にお書き添えください。

振込先 郵便振替 00820-7-128368  
ビーリア(ボノボ)保護支援会

なお、ニュースレターをメールでお受け取りになりたい方は、振り込み書の通信欄にメールアドレスをご記入ください。

## Tシャツを作りました！

ボノボのTシャツを作りました(写真版とイラスト版の2種類)。購入ご希望の方は、ファックス、郵便、メールのいずれかにて、ご連絡ください(在庫に限りがありますので、かならずお問い合わせください)。メールの場合は、メールの件名に「Tシャツ購入希望」とお書きください。料金は、大人用(S, M, L, XL)が2000円、子ども用(110, 130, 150)が1500円です。お申し込みの後、料金と郵送料の振り込みを確認し次第、Tシャツをお送りします。(振込先は、寄付金と同じ。通信欄にはTシャツ購入希望とお書きください)。なお、原価との差額は、すべてボノボ孤児施設の支援および野生のボノボの保護に使われます。



イラスト版				
		色		
		オレンジ	ブルー	ネイビー
サイズ	130			×
	S, M, L		×	
	XL	×	×	

写真版						
		色				
		グレー	水色	青	アクア	濃緑
サイズ	110					
	130					
	150					
	S, M, L, XL	(M, Lのみ)		(Mのみ)		

送料(梱包費用 50 円を含む) : 3 枚以上はお問い合わせください	
1 枚	210 円
2 枚	260 円

サイズ							
	110	130	150	S	M	L	XL
着丈	44	52	60	66	70	74	78
身巾	33	37	43	49	52	55	58
袖丈	13	15	17	19	20	22	24

### 連絡先

〒484-8506

愛知県犬山市官林 京都大学霊長類研究所生態機構分野内  
ビーリア(ボノボ)保護支援会

Fax : (0568) 63-0565

E-mail: bonobo@mbd.niftv.com

ビーリア(ボノボ)保護支援会の情報および Lola ya bonobo のニュースレターは、ビーリア(ボノボ)保護支援会のホームページにてご覧いただけます。

<http://homepage3.nifty.com/bonobo/>